

低炭素社会の構築

地球温暖化防止のために産業界や運輸・交通などでさまざまな取り組みがなされ、日本全体の温室効果ガスの総排出量は前年に比べれば減少傾向ですが、京都議定書の基準年1990年と比較すると増加しています。特に、普段の生活や店舗など「民生業務部門」から排出するCO₂は増加し続け、1990年比40%以上の増加となり、これをどう減らしていくかが大きな課題になっています。私達のライフスタイルを変えていくことが、地球温暖化防止に大きな影響力をもたらします。

▶ 地球温暖化とは

地球環境の現状

CO₂などの温室効果ガス（GHG: Green House Gases）の増加により、地球表面から出てくる赤外線が吸収・再放出され大気中に熱が溜まり、地球温暖化が進んでいると言われています。本来自然界で発生したCO₂は、森林や海洋による吸収によりバランスがとれていたのですが、人間が化石燃料（石油や石炭、天然ガスなど）を消費するようになり、吸収しきれなくなってしまいました。

地球の温暖化は、化石燃料をエネルギーとして電気を起こしたり、自動車を走らせたり、冷暖房に使用することによりGHGを排出し、また熱を放出していることが原因です。このまま地球温暖化が進むと、100年後には大気中の温室効果ガスが増え、平均気温が上がり、多くの生き物が生存できなくなると言われています。



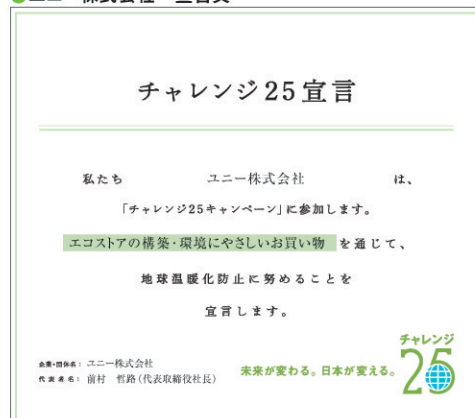
GHG: CO₂ (二酸化炭素) のほかに、メタン (CH₄)、亜酸化窒素 (N₂O)、フロン (CFCs・HCFCs) などがあります。

チャレンジ25

地球温暖化という人類の生存に関わる脅威に対して、世界が立ち向かおうとしています。2009年9月、鳩山前首相が国連気候変動サミットにおいて、我が国の目標として、温室効果ガス排出量を2020年までに1990年比で25%削減することを表明しました。そして政府では、地球と日本の環境を未来の子供達に引き継いでいくため、温暖化防止の国民運動を「チーム マイナス6%」からさらに目標設定を厳しくし、「チャレンジ25キャンペーン」として新たに展開しています。このチャレンジ25のキックオフイベントに、民間企業の代表としてユニーの前村社長も参加しました。



● ユニー株式会社 宣言文

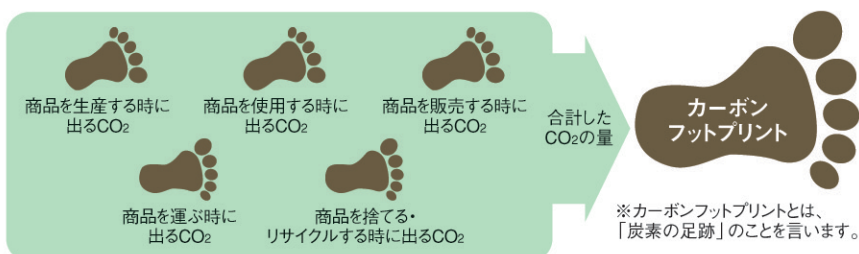


▶ CO₂排出量を減らすための取り組み

CO₂の見える化

私達の生活から排出されていると言われる「民生業務部門」のCO₂。その中で、毎日の食卓に並んでいる食品もCO₂排出に影響しています。例えば、季節外れの野菜や果物は、ハウス栽培で化石エネルギーを使って栽培されていたり、地球の反対側から輸入されていたりと、CO₂排出量の大きな食品が普段の食事に頻繁に出されていたりします。食品に限らず、ユニーで販売しお客様に購入していただいている商品やサービスは、原料の採取・生産・流通・販売・消費・使用後までのライフサイクルアセスメント（商品の一生）を通じて、多くのエネルギーが使われています。そのエネルギーの多くは化石燃料から得られているので、地球温暖化の原因となる温室効果ガスを大気中に排出しています。

この排出されたCO₂など温室効果ガスの量を数字とマークで表して「CO₂の見える化」を図ったものが、カーボンフットプリント、CO₂の足跡です。できるだけ数値の少ない商品を製造・販売し、そしてお客様に購入していただくことで地球温暖化を防止しようという取り組みです。



※カーボンフットプリントとは、「炭素の足跡」のことを言います。